

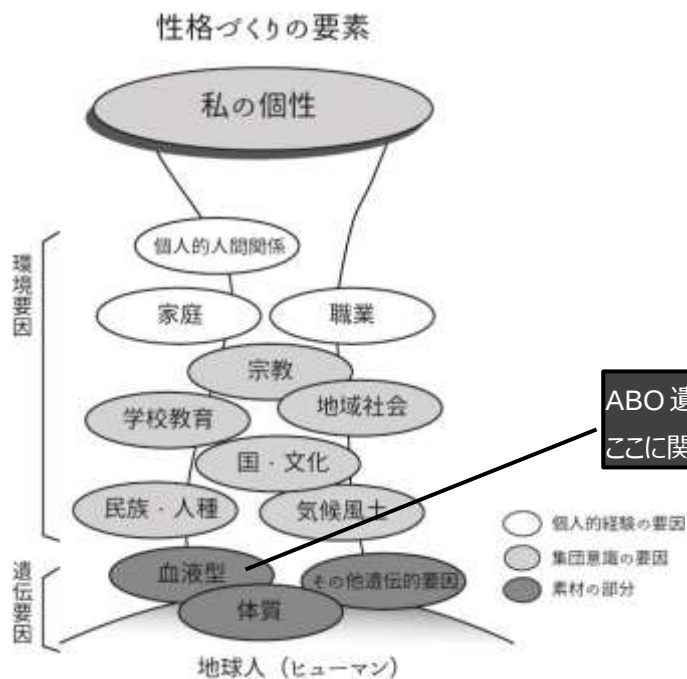
§ 2.性格構造と ABO 血液型

■ ABO 気質が性格に影響するしくみ

人はそもそも、固有の環境と固有の遺伝情報や記憶を持つユニークな存在であり、人の性格、個性がつくられるしくみは様々な要素が関わり実に複雑である。

それらをいくつかの視点から図解し、ABO 遺伝子の関与も考えながら見ていくことにする。

◎遺伝要因と環境要因



左図に性格形成に関与すると思われる要素をあげてみた。

ABO 血液型は遺伝要因のいわば『素材』の部分となる。

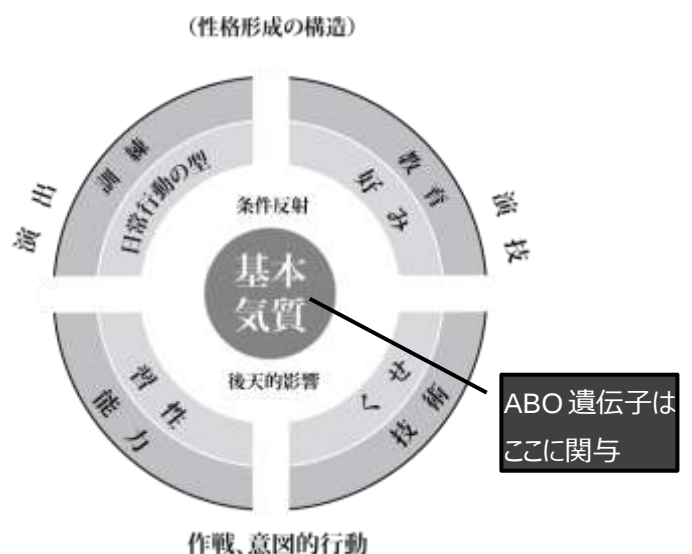
環境要因には、集団意識による影響と個人的経験によるものがある。

◎能見正比古が示した性格形成の構造図

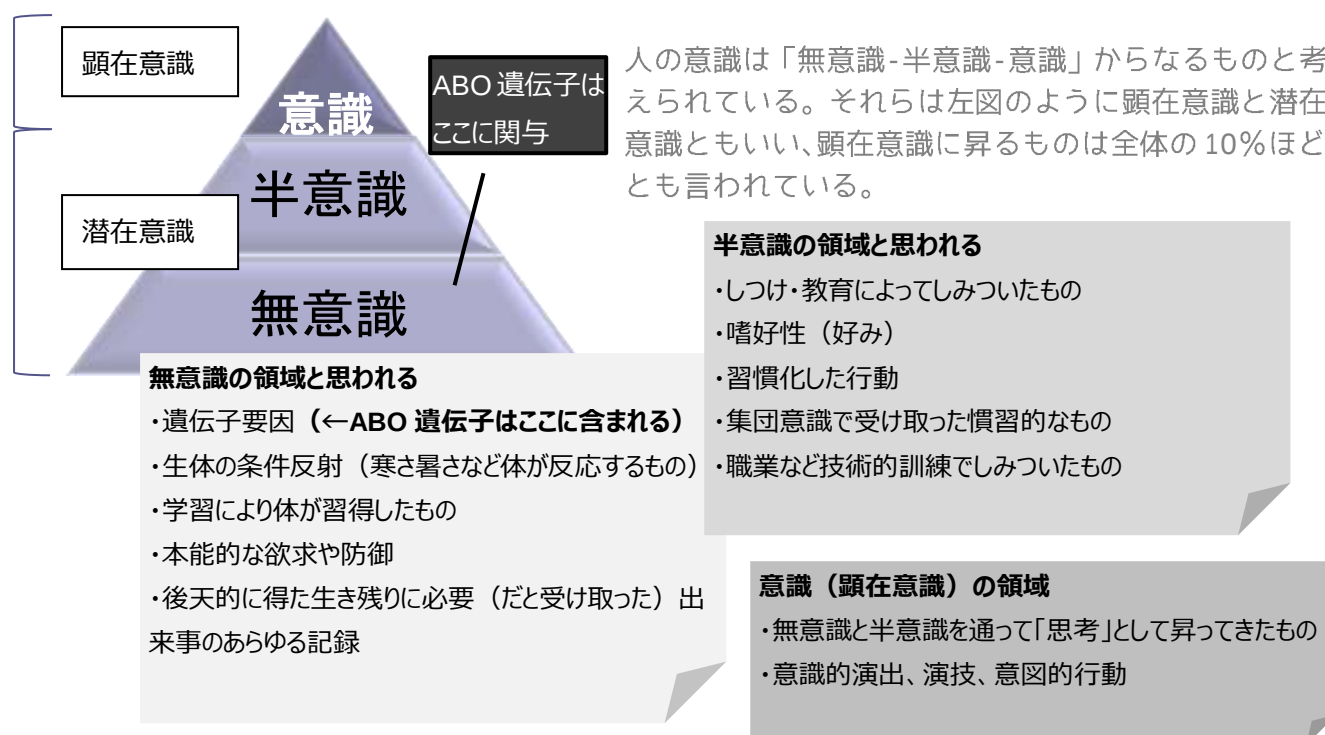
基本気質と無意識に受け取った後天的影響から成る中心の二重の円を基本的な性格とし、あるいは3重目の円にある「好み」や「くせ」「習性」についてもある程度、性格といえるものが含まれるとした。（ここまでは無意識の領域）

そして4重目は行動パターンとして表出し、しみついてゆけば半意識のあたりで行われるとした。

円の外側の部分については意識的行為であり、性格には含まれないと考える。



◎「無意識-半意識-意識」の階層



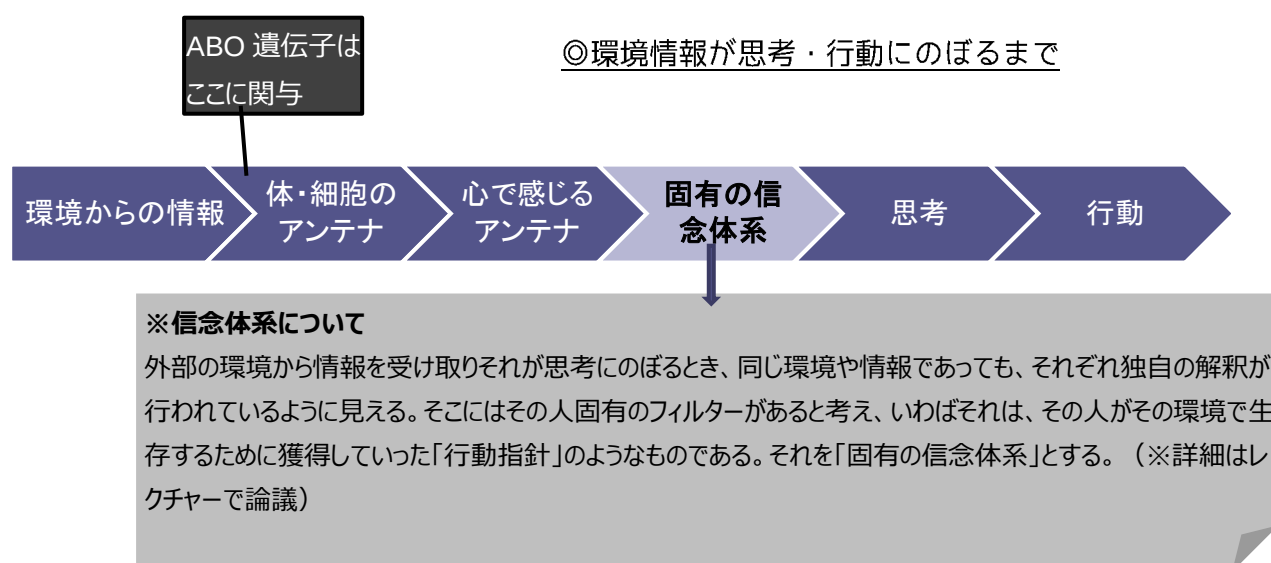
[Q] どこまでを「性格」と考えるべきか？

ある人物の性質を示す「性格」とは、本来、無意識と半無意識の領域から表出されるのであり、思考という意識に昇った意識的行動というのは、「性格」とは言えない部分が多く含まれる。しかし一方には、思考 (脳) もまた、『心』を創り出すという一面もあるようで、『心』の在り方が性格づくりに影響するとも思われる。(思考からのフィードバックによる性格づくり)

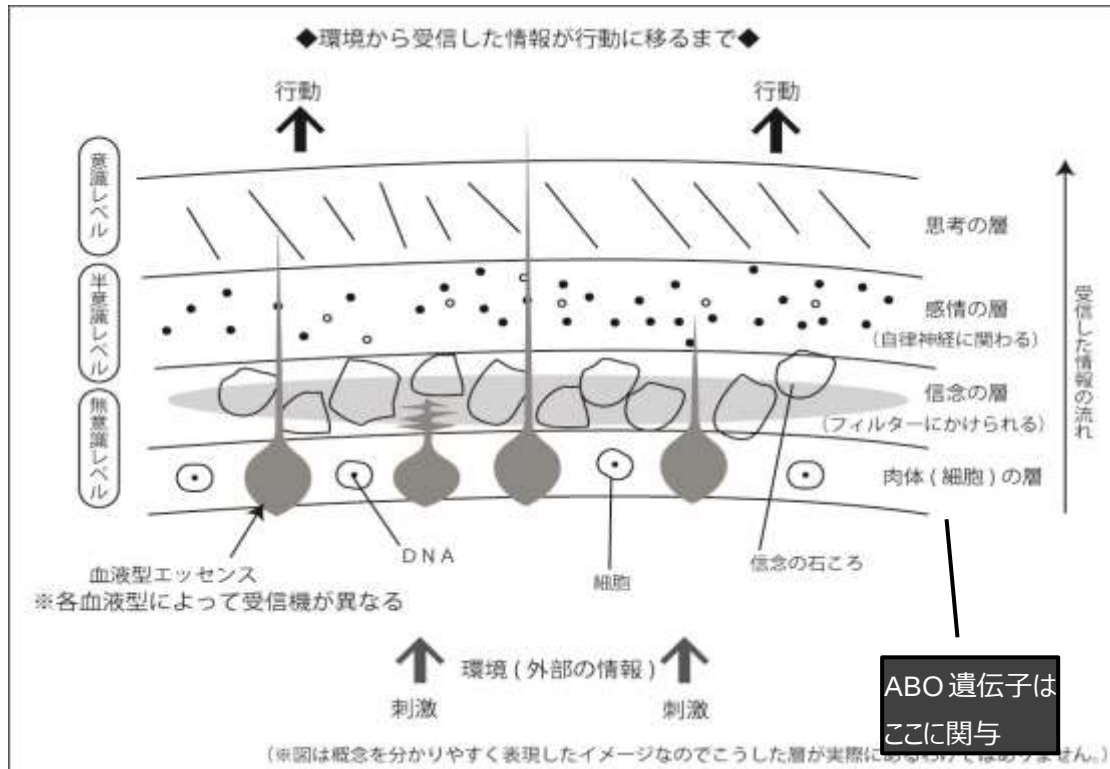
※『心』の定義によってこの考えは、若干の修正、あるいは説明が必要になるが、詳細はレクチャーにおいて論議する。

[Q] 人は外部の情報をどのように取り込むのだろうか？

人は自己の持つ素材 (遺伝的要因) を元に、環境から受け取った刺激 (情報) を取り込みながら、各々の性格や個性を形作る。その様子をモデル図で更に整理してみよう。



◎ABO 気質が表出されるしくみ



人が環境から情報を受け取り、それが思考にのぼるまでには、いくつかの層を通り抜けているだろうとイメージしている。その中でどの層がどの位置にくるかは特定できないが、ひとつのパターンとして上図を示している。

ここでは「信念の層」を、情報を受け取った肉体（細胞）の、すぐの最初の層に置いている。なぜなら、その人の信念体系は無意識のうちに潜在意識に押し込められたものが多くあると考えられ、その場合、思考や感情より先に、無意識レベルで働くことが多いからである。

ABO 遺伝子は、主に人の細胞表面で環境の情報を受け取るアンテナの役割として、一番最初の層にある。しかしそれは、「ABO 気質のエッセンス」として、いくつかの層を通り抜けながら、各所において、にじみ出るように表出しているのではないだろうか。

（以上は、心理学的な概念を取り入れながら性格づくりを見たときの、ABO 血液型の関わり方である。全てが既存の心理学に沿っているわけではなく、特に「信念の層」などについては、新たな概念として取り入れている。）

■ ABO 血液型気質を知ることの有用性とは

ABO 血液型はコンパスの役割

現時点において、私たち人間は、見えないものを理解することは難しい。人の性格や思考や心も、手に取って目で確認することは困難なことである。

私たちが、理解したり確認したりできる以上のものを認識できないのだとしたら、人の性質や、心や思考の働きを、客観的に分析することも至難だ。

もちろんそうした中でも、潜在意識の在りかなど、心理学などの分野で長い研究歴史を重ねて解明してきた事柄も多数ある。

ただしそれらは、一部の、それについて熟達した者たちでなければ取り扱いが難しい。

そして人間の現状を冷静に眺めれば、私たちは、他人どころか自己のことでさえ、正しく認識することが出来ておらず、日々、他人との衝突や、自己喪失などの機能不全を起こし続けている。この憂える状況を改善するには、人間が人間自身のことについて、より正しく理解すること、そのための工夫と努力をすることである。

こうした中において、ABO 血液型気質の発見というのは非常に画期的なものである。

ABO 血液型気質の理解は、そうした全くもって取り留めのない人間の性質において、客観的な基準を与えてくれる、コンパスのような働きをしてくれるからだ。

何かを基準とする場合、それが主観的なものであっては決して基準とはならない。しかし ABO 血液型というのは、明らかに人間の遺伝子的違い、つまり材質の違いを示す客観基準となり得るのである。

分類することは間違いではない

また、近年、平等や権利、自由の名において、「分類」することへの懸念を訴える向きが強くなるが、それを ABO 血液型分類に充てる場合は、正しい認識が必要である。

私たちが、ある物事、ある出来事をよく理解するには、一度分類する必要があるのである。

私たちが自然現象を理解するとき、それが風によるものなのか、水によるものなのか、何事も分類せずしては正しい理解に至ることはできない。

男女の生理的機能の違いを理解するのと同じように、血液型もまた、機能の違いとして分類する必要があるのである。

これについては要するに、分類することが問題になるのではなく、分類して「差別」することが問題になるのだということを理解すべきである。

血液型人間学が「差別」のためにあるのではなく、「理解」のためにあるのだという点を、扱う者はしっかり心に留めておかなければならない。

人間には多くの神秘が残されている

最後に、今一度再考すべき点がある。

私たち人類が、今の時点でどこまで人間のことを理解しているだろうかということだ。

私たちは、地球をとりまく自然現象はもとより、人間自身の脳や体についても、10 分の 1 ほどのことしか分かっていない。

つまり人間には、まだ多くの神秘が残されていると考える方が間違いはないであろう。

私たちは、この現実を謙虚に受け止めなければならず、そして今後の将来において、新しい事実、真実が、次々と発見されるであろうことを、常に念頭に置かなくてはならない。

ABO 血液型の事実も、それは非常に重要ではあるが、人間の真実の、ほんの欠片にすぎないかもしれない。

それでも、私たちが進化し続けるために、今の時点で知り得ること、生かすうる事を、最大限知り、生かしていこうというものである。

このセクションのまとめ

- ✓ 人の性格形成には遺伝的要因と環境要因の2つが関わり合う。そして ABO 遺伝子は遺伝的要因に関わるものである。
- ✓ ABO 血液型気質は、素材として、あるいは細胞のアンテナの役割として存在するが、そのエッセンスは人の行動や思考など、各所ににじみでるように表出している。
- ✓ ABO 血液型は人の性質を理解するためのコンパス（客観的基準）となる。
- ✓ ABO 血液型を扱う者は、それを「分類」するのが間違いではなく、それで「差別」するのが間違いであるということを心に留めておく。